

■科目選択の下調べはできていますか？

1・2年生は中間考査後に次年度の科目選択説明会がありました。来年度選択する科目は最終的には受験時に使用する科目に直結します。「まだ急には決められないよ」という人も多いと思いますが、だからこそ、**この時期きちんと**「自分が何をを目指すのか」「そのためにどんなことを学べば良いのか」と**考える時間を確保**してほしいと思います。3年生は2学期以降の模試では「どの教科を受験するのか」をしっかりと確認しておく必要があります。第一志望に必要な科目だけしか見ていないと、予定通り行かなかったり気持ちに変化があったときに対応できなくなる可能性もあります。同じような大学でも、受験科目に違いがあれば簡単に志望校を変えるということができません。受験に関するあらゆる可能性を想定し、独りよがりの決断にならないようにしたいですね。担任や教科の先生ともよく相談し、かつ**自分でよく調べて**選択の準備をしてください。

■オープンキャンパスの計画をたてよう

現在多くの大学からオープンキャンパス（OC）の案内が届いています（一部は進路指導室前に掲示）。これから夏休みにかけて各大学のOCが盛んになりますが、その大学の雰囲気を知るには非常に有効な機会です。ここ数年コロナ対応でオンラインでの実施や人数限定のものが多かったですが今年は多くの大学が通常のカンパスの開催に戻りつつあります。興味のある大学については是非OCに足を運んでみることをお勧めします。大学の教育内容はもちろんですが、キャンパスや学生の雰囲気、街の様子なども見ることで大学というものをもっと身近に感じられると思います。ナビジョンのサイト（裏面参照）などでOCの情報を入手できますので、部活や補習の日程と調整しながらOCの計画をたててみましょう（都合があればチームOGの協力も依頼できます）。



■大学入試基礎用語（第2回）「学校推薦型選抜と総合型選抜入試」

「学校推薦型選抜」は一般選抜と並ぶ大学入試の柱の一つです。一般選抜との違いは、出身高等学校長の推薦を受けないと出願できない、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況○以上」「○浪まで」といった出願条件が設定されている場合もあり、条件をクリアしないと出願できません。「学校推薦型選抜」には、様々なタイプの選抜がありますが、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれます。「公募制」は、大学の出願条件をクリアし、出身高等学校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の「指定校制」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜です。指定校入試は、学校の推薦を受ければ必ず合格できるイメージがありますが、合格を保証していない大学もあり、また、入学後の大学生活の取り組みにも（母校のお墨付きをもらって行くわけですから）それなりの責任が生じます。

「総合型選抜（かつてのAO入試に相当）」とは、エントリーシートなどの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。他の入試方式と比べ、「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。早いところだと1学期のうちからエントリーが始まる場所もあります。

いずれの試験も原則的には「その学校を第一志望とし、合格したら入学する意思のある生徒」が対象となりますが、それぞれ長所短所、向き不向きがあり、自分にあった選抜方式を考えておくことが重要です。